

いしかわ

まちづくり ビュー View

No. 64

目次

■特集 金沢市夢ある公園再生・活用計画について	…1
■あのまち、このまち“まちづくりめぐり”	
兼六駐車場の完成	…4
第29回いしかわ景観大賞について	…6
(都)福正寺竹松線(ラウンドアバウト)の完成	…8
■センターだより	…9

特集

金沢市夢ある公園再生・活用計画について

1 はじめに

新型コロナウイルスの流行によって、自宅など屋内で過ごす時間の増加に伴い、身近に安心して屋外で活動できる憩い、安らぎの空間として、公園利用のニーズが高まりを見せています。一方で、少子高齢化や住民ニーズの多様化により、あまり利用されていない公園も実態として多くみられ、全国的にも自治体が抱える公園管理の課題の一つとしてあげられています。

このような背景において、本市では、公園を取り巻く現状と課題を整理し、地域に有する公園の魅力をさらに高め、子どもたちをはじめ多くの市民に、より利用される公園を目指し、公園の再生に取り組んでいます。

2 本市における公園を取り巻く現状

(1) 公園の充足状況

市内において約800箇所ある公園のうち、1960年～90年の土地区画整理事業によって、多くの公園が整備されました。一人当たりの都市公園面積に換算すると約13㎡で、都市公園法施行令に定める一人当たりの標準の都市公園面積となる10㎡を超えており、概ね充足している状況にあります。

(2) 公園施設の老朽化や同種の遊具の存在

現在、公園全体の約半数は、設置から30年以上経過しており、金属製の公園施設をはじめとした各種施設の老朽化が懸念されています。また、公園の多くには、定番の遊具として「滑り台」、「ブランコ」、「砂場」を設置してありますが、近年、余暇やニーズの多様化などから、利用者が少ない公園も散見される状況にあります。

(3) 維持管理費の増加

本市の公園などにおける年間維持管理費は、管理数の増加、施設の補修や更新の増加等に伴い年々増加傾向にあり、約10年前と比較すると約2倍になっています。

3 本市における公園の課題

(1) 十分に活用されていない公園の解消

公園の誘致圏や機能の重複、適切な維持管理などがなされず十分に活用されていない公園が顕在化していることから、必要な機能の適切な配置などにより、公園の有効活用を図る必要があります。

(2) 地域特性に応じた公園施設への更新

公園に対するニーズは、年齢や公園の規模、場所な

どによって異なっていることから、高齢者、幼児や児童、障がいのある方など、地域特性に応じて優先度の高いニーズに対応できる公園施設への更新が必要です。

(3) 公園の維持管理費の抑制

今後も施設の老朽化や維持管理費の増加が見込まれることから、施設更新に合わせた計画的な公園機能の分担や市民などとの協働による管理運営方策を検討し、公園の維持管理費を抑制することが求められます。

(4) 市民や事業者などが適正かつ柔軟に管理運営しやすい仕組みづくり

市民アンケートの結果から、公園清掃などのボランティアへの参加意向は高い傾向にありますが、参加している市民は限られており、活動への参加を促すための工夫や動機づけなどが必要です。また、利用しやすい公園にするため、市民や事業者などが主体的にルールを定め、適正かつ柔軟に管理運営しやすい仕組みが求められます。

4 金沢市夢ある公園再生・活用計画の策定

本市では、現状と課題を踏まえ、市内に多く点在している既設の公園について、次世代を担う子育て支援に重点を置き、より多くの市民に楽しく活用されることを目的に、公園再生・活用に向けた方針や施策を示した「金沢市夢ある公園再生・活用計画」を令和3年3月に策定しました。計画に示した施策の展開は次のとおりです。

(1) 小規模な公園の機能分担・再編

日常利用しやすい小規模な公園の機能分担・再編により、幼児や児童、地域住民などの公園利用者の増加やコミュニティ活動の活性化を図ります。具体的には、地区別にワークショップを開催し、地域の利用実態やニーズに合わせて公園を再整備します。

(例) 幼児・児童施設の近接公園 → 対象世代遊具
コミュニティ・健康づくり目的 → 花壇・健康遊具

(2) 大規模な公園の機能強化

近隣公園、地区公園、運動公園、総合公園などの大規模な公園の機能強化を図り、誰もが使いやすい利用者満足度の高い公園に整備します。

(例) インクルーシブ遊具の設置 (図1: 玉川公園 令和5年3月完成)
パークPFIなどの民間投資によるサービスの向上

(3) まちなかの賑わい創出に向けた公園の有効活用

まちなかの賑わい、憩いの場の創出に向けた有効活用ができる公園を目指します。

(例) 対象公園での店舗営業などの制限の緩和制度

(4) 地域との連携による公園維持管理・活用の推進

既存の制度の見直しや新規制度の創設などを検討し、地域が主体的に公園を活用しやすい環境整備を目指します。

(例) 公園愛護制度の見直し、報奨金の充実



図1 玉川公園 (令和5年3月完成)
インクルーシブ機能を有した遊具を新設

5 小規模公園の機能再編・分担の取り組み

計画に基づき、小規模公園の機能再編・分担の取り組みを令和3年度から実施しており、その取り組み状況を紹介します。

本市の南部に位置する泉野地区において、1970年頃の区画整理事業により整備された4つの児童公園を対象に機能再編・分担の検討を実施しました。公園の計画にあたり、各公園に関連する3つの自治会の住民によるワークショップを行いました。これまで、本市では、新しい公園を整備する際に、市民提案型公園として、ワークショップを開催し、整備してきた実績はありましたが、複数の自治会にまたがる4つの公園のあり方を議論することは初めての取り組みであり、いかに地区全体の住民のニーズをうまく取り入れ、計画に反映させるかということが課題でした。

(1) ワークショップの開催

幅広い意見を取り入れたいという視点から、各自治会には子育て世代や女性の参加を依頼しました。また、意見に地区の偏りがあるとはならないので、3つの自治会のメンバーを分散させた3つのグループに分けて、ワークショップを計3回開催しました。複数の自治会

の方々がグループに入り混じることで、各公園の利用状況をお互いに把握でき、既存の4つの公園をいかに機能分担させ、最大限に活用するかという建設的な話し合いが進みました。また、毎回のワークショップの結果をまとめ、かわら版として地域の皆様に周知したところ、それを見た方が自治会々長に、公園に対する要望を伝え、次のワークショップに反映させるという流れができていました。



写真1 ワークショップの開催状況

(2) 公園計画案の完成

子供たちが良く集まっている公園には、未満児・園児・小学生向けの遊具をゾーンに分け、子供たちの遊びに特化した公園とし、図書館が近接している公園には、遊具を一切設置せず、読書が楽しめるよう四阿・ベンチを設け、落ち着いた空間にするなど、地域の実情や利用実態が非常によく公園計画に反映されたものとなりました。図2は、各公園の整備方針を示したもので、令和5年3月には地区の第1号となる泉野第一児童公園（図3）が完成しました。

夢ある公園(泉野地区) 位置図



図2 泉野地区の各公園の整備方針

ワークショップ参加者のアンケートには、「非常に満足した」、「公園を地域でさらに活用していこうという機運が高まった」、「公園の維持管理に対する意識が高まった」などの意見がありました。

(3) 今後の展開

今回のワークショップの取り組みを通じて、似通った遊具や広場のある昭和時代の児童公園が、地域の方々の思い入れが詰まった街区公園に生まれ変わり、完成後の積極的な利活用のほか、地域による維持管理が期待され、管理費の節減にもつながるものと思われまます。



図3 泉野第一児童公園（令和5年3月完成）

6 まとめ

行政課題として、いかに既存の公共ストックをうまく活用するかということが常に問われています。計画に基づき、大規模な公園におけるインクルーシブ遊具の設置をはじめとする機能強化や、定期的な店舗出店が可能なスキームの検討を行い、公園の魅力向上に向けた取り組みをさらに推進していきます。また、今回紹介しました小規模公園の機能再編・分担の取り組みは、使う側である地域住民の意見を最大限に取り入れた夢のある公園づくりにつながるものと思われ、今後さらに、他地区でも同様な取り組みを進め、「みんなで考え・みんなで育てる・みんなの公園」づくりをさらに目指していきたいと考えています。

【問合わせ先】

金沢市都市整備局緑と花の課

TEL : 076-220-2356

E-mail : midobana@city.kanazawa.lg.jp

兼六駐車場の完成

1 はじめに

兼六駐車場は、城下町金沢の象徴である特別名勝・兼六園に隣接した大型駐車場として、昭和49年に供用を開始しました。

乗用車や観光バスで金沢を訪れる観光客の玄関口として、多くの方々に利用されてきましたが、供用から半世紀近くが経過し、施設が老朽化したことに加え、乗用車の大型化により、駐車スペースや通路に余裕がなく、利用者にとって不便な状況となっていました。

さらに、駐車場が面する兼六園下交差点において、慢性的な交通渋滞が発生していたことから、平成26年度より、駐車場の建替えと交差点の拡幅整備を一体的に実施する事業に着手しました。

2 事業概要

事業名：兼六園下交差点周辺整備事業

事業箇所：金沢市小將町

事業期間：平成26年度～令和4年度

3 施設概要

構造：鉄骨造 5階建て

敷地面積：約7,100㎡

延床面積：約23,800㎡

駐車台数：1階 観光バス40台

2階～5階 乗用車480台

付加機能：観光情報コーナー、休憩コーナー、
まちのりポート（金沢市）、
兼六園下交番（合築）等

4 整備概要

建替えにあたっては、工事期間中も可能な限り駐車台数を確保するため、段階的に整備を進め順次供用してきました。

建物の外観については、瓦や土壁を意識したグレーやベージュを基調とする外壁に格子を施すなど、隣接する兼六園や金沢城公園など周辺の景観との調和にも配慮しました。



写真1 完成した兼六駐車場（令和5年3月完成）



写真2 旧兼六駐車場

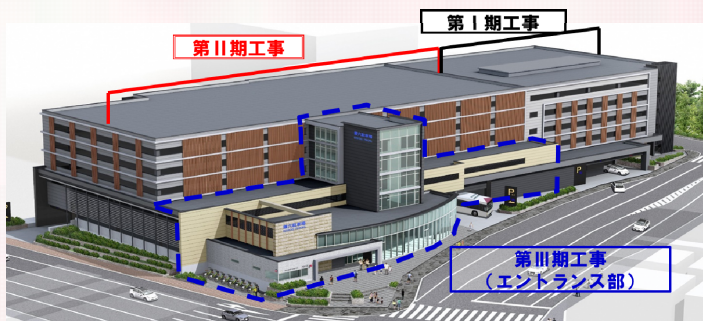


図1 工期別施工箇所

エントランス部には、情報発信機能を備えた観光情報コーナー（写真3）や休憩コーナー（写真4）を設けたほか、金沢市と連携し「まちのりポート（写真5）」も設置したことに加え、ガラス張りのエレベーター塔の上層階からは石川門を眺めることができる（写真6）など、様々な工夫を凝らしています。

また、兼六園下交番（写真7）を合築し、駐車場前面に広場を整備したことで交差点の見通しが良くなることから、安全・安心の面でも充実が図られ、観光客をはじめとする、利用者の多様なニーズにお応えしています。



写真3 観光情報コーナー



写真4 休憩コーナー



写真5 まちのりポート



写真6 エレベーター塔の最上階



写真7 兼六園下交番

5 完成式

令和5年3月12日には、馳知事をはじめとする多数の関係者列席のもと、兼六駐車場内にて完成式が執り行われました。（写真8）



写真8 完成式の様子

6 おわりに

新たな兼六駐車場が、国内外から本県へお越しになる多くの方々に、歴史と文化の魅力が詰まった「兼六園周辺文化の森」を回遊していただく際の拠点として、賑わい創出に寄与するとともに末永く親しんでいただけることを期待しています。

【問い合わせ先】

石川県土木部都市計画課

TEL:076-225-1757

E-mail:toshikei@pref.ishikawa.lg.jp

第29回いしかわ景観大賞について

1 はじめに

石川県は、白山や美しい能登、加賀の海岸など多彩な地形が織りなす自然環境を始めとして、のどかな里山、歴史的・伝統的な町の佇まいなど、優れた景観資源を有しています。県では、この優れた景観資源を保全するため、全国初の取り組みとして「景観条例」と「屋外広告物条例」を一本化した「いしかわ景観総合条例」を平成21年1月に施行しました。

「いしかわ景観大賞」は、県民の皆様の景観形成に対する意識を高めることを目的に、良好な景観の形成に顕著な取り組みを行った団体又は個人を顕彰するもので、今年で29回目となります。県民一人一人の景観づくりの取り組みが、ひいては地域の個性を磨き、品格を高め、交流人口の拡大や地域の活性化に大きな効果をもたらすと考えています。

2 受賞作品（第29回いしかわ景観大賞・景観賞）

いしかわ景観大賞（知事表彰）

■ 清水建設北陸支店新社屋



所在地／金沢市玉川町

受賞者／【事業者】清水建設株式会社北陸支店

【設計者】清水建設株式会社北陸支店

【施工者】清水建設株式会社北陸支店

選定理由／緑多く低層な街並みが続く金沢市玉川町の景観に配慮した建物規模や配置としたことで、従来からこの地で営んできた街並みの記憶を継承している。また、既存樹木を保存継承し、いろどりある景観をつくり出すとともに、壁柱・庇・伝統的な木虫籠から着想を得たルーバーにより構成され、歴史的街並みと親和する表情をつくり出している。夕景には伝統的な格天井を想起させる、能登ヒバでつくられた建物内の大梁が、南の開口から望まれる。



寺井町活性化協議会（てらかつ協議会）による街並み景観の創出

（能美市寺井町）

受賞者／【活動主体】寺井町活性化協議会（てらかつ協議会）

選定理由／地域住民等の有志による「てらかつ協議会」により、「ジャパン九谷」というコンセプトのもと「能美東西連絡道路」等の景観デザインに取り組むとともに、多様なイベントなどのソフト事業も積極的に展開し、寺井まちなかの活性化やにぎわい創出を図っている。



山代スマートパーク（加賀市山代温泉）

受賞者／【事業者】加賀市、山代プラス

【設計者】山代プラス

【施工者】山代プラス

選定理由／県内初となる Park-PFI を活用し整備された。背後にある萬松園の緑と街なかをつなげるように植栽を設置し、山代温泉の西の玄関口にふさわしい景観となっている。公園内にカフェやキッズ広場、軒下デッキスペースを点在させる等、地域のにぎわいも創出している。



ダイダン株式会社 北陸支店（金沢市尾張町）

受賞者／【事業者】ダイダン株式会社

【設計者】株式会社プランテック

【施工者】共立建設株式会社

選定理由／周辺の低層建物との連続性や親和性を持たせるために建物を低くし、隣地の塀の高さに軒高を合わせるなど、周辺環境への調和を意識しながら計画された。夜間照明は明るすぎないように配慮し、辺りを照らす行燈の灯りをイメージしている。



福島こども園（能美市福島町）

受賞者／【事業者】社会福祉法人めばえ保育園

【設計者】株式会社時設計

【施工者】株式会社中東

選定理由／能美市内で初めて民営化された保育園。ユニークな形状の木造平屋建てで、広大な園庭や中庭に植栽や池からなるビオトープを整備するなど、自然とふれあうことのできる恵まれた保育環境となっている。



七尾城登山口駐車場休憩案内所（七尾市古屋敷町）

受賞者／【事業者】七尾市

【設計者】武岡設計事務所

【施工者】株式会社シラヤマ

選定理由／七尾城跡の玄関口として、また七尾城をアピールする場所として整備された。七尾城山を背景とした時の景観になじみやすいデザインとするため木造とし、外周部には付け柱・つけ梁を施し、風景に溶け込む仕上げとなっている。

【問い合わせ先】

石川県土木部都市計画課 TEL : 076-225-1759

(都) 福正寺竹松線 (ラウンドアバウト) の完成

1 はじめに

(都) 福正寺竹松線は、(都) 五歩市成線とともに松任市街地の内環状道路を形成する路線として位置づけられていますが、その交差点部が変則五差路となっていることから、安全性が高い交差点への改善が求められてきました。そこで、平成27年度に環状交差点(ラウンドアバウト)とする都市計画変更を行い、令和元年度より交差点改良事業を進めてまいりました。

ラウンドアバウトとは、平面交差点の一種で、車両の通行する部分が環状になっており、その部分を右回り(時計回り)に通行することが指定されている交差点をいいます。県内では、かほく市、加賀市で既に導入されており、多枝交差点においては、信号機による交通制御よりも円滑で安全な制御を行うことが可能となります。



写真1 整備前



写真2 整備後

2 事業概要

路線名：都市計画道路福正寺竹松線

事業期間：令和元年度～令和4年度

外径：W=48m

環道幅員：W=3.5m

事業費：約3.7億円

3 白山警察署による実演説明会

県内でも数少ない交差点形状であることから、通行方法の周知がかねてからの課題とされてきました。

そこで、供用開始に合わせ、白山警察署と連携し通行方法の実演説明会を行い、周辺住民に周知を図ることとしました。当日は好天も手伝い、100名以上の方が集まりました。



写真3 警察によるデモ運転

4 おわりに

令和4年11月に供用開始し、4カ月が過ぎようとしています。説明会や市広報での周知の甲斐あり、現在のところ事故もなく、周辺住民の方からは交差点が安全になったとの言葉もいただいています。

今後もこの交差点が地域の安全を守り、ラウンドアバウトの普及に寄与することに期待が寄せられています。



写真4 全景

【問合わせ先】

石川県白山市建設部土木課

TEL:076-274-9557

E-mail: doboku@city.hakusan.lg.jp

センターだより

～まちづくりリーダー研修会を開催しました～

■ 県内各地のまちづくり活動団体が集結

当センターでは、将来地域のまちづくりのリーダーとなる子どもたちと一緒に、まちを知り・考える活動を支援する「いしかわこどもの未来創造まちづくり事業」と、地域の風土・食・伝統をテーマとした継続的なまちづくり活動を支援する「我(和)がまちづくり(いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業)」の2事業を行っています。

先般、石川県立図書館において、今年度の当支援事業の活動報告および団体間の意見交換・情報交換の場として『まちづくりリーダー研修会』を開催し、延べ70名の皆様にご参加いただきました。

■ 開催概要

開催日：令和5年2月23日（木・祝）

場所：石川県立図書館 2階研修室

内容：【第1部】活動報告

【第2部】意見交換会

～パネルディスカッション～

■ 第1部 活動報告

今年度、助成を受け活動した9団体から1年間の取り組みについて報告がありました。活動の様子や実際に製作した作品等も会場に展示し、作品を前に団体間で情報交換する場面も見られました。また、活動団体の方々を応援するブースには、たくさんの応援メッセージが寄せられました。



▲ 活動報告の様子



▲ 会場の様子



▲ 作品展示ブース



▲ 応援ブース

■ 第2部 意見交換会

第2部のパネルディスカッションでは、1年間の活動を終えて良かったことや困ったこと、次年度に向けた思いなど、参加者から積極的な意見が交わされました。

今回の研修会で得たヒントや団体間の交流が新たな化学反応を起こし、更に活動の広がりが生まれることを期待しています。



▲ パネルディスカッションの様子

■ 参加者の声

- ・地域とのつながり、人とのつながり、つながりの大切さを改めて考えました。
- ・どの活動にも工夫や発見があり、大変参考になりました。
- ・さまざまな団体の活動内容を聞くことができ、面白かったです。

■ 動画配信

当日の発表動画をセンターHPで配信しています。是非、ご覧ください。

<https://www.machisen.jp/machi/yousei.html>

編集後記

コロナ禍であらためて分かった地域のつながり、人と人のつながりの大切さ。コロナ禍を乗り越えようとした様々なアイデアや工夫がまちの活力と魅力を高め、持続可能なまちづくりの実現につながっていくことでしょう。

当センターでは、皆さまのまちづくり活動を支援するとともに、まちづくりに関する情報発信に努めています。是非、お気軽にお問い合わせください。

編集協力：石川県(都市計画課)、金沢市、白山市

発行：公益財団法人 いしかわまちづくり技術センター

TEL：076-239-1616 FAX：076-239-1606

HP：<https://www.machisen.jp/>

発行日：令和5年3月